XFILE3 | バージョン 6.7
リリースノート

（2024 年 6 月）

Photron

警告

> ２０２４年１月でTruck Managerのサポートが終了したため、XFile 6.7以降、Truck Managerとの統合はサポートされなくなりました。

> C-NEXTが2024年1月にサポート終了となるため、XFile6.6以降、コントリビューションワークフロー（C-NEXT連携）はサポートされなくなりました。XFile3のUIからコントリビューションの設定とオプションが削除されました。

> 6.2バージョン以降、Xfile3インストーラーは1つではなく、3つのファイルで構成されています。
.exeファイルを実行してXfile3インストールを開始する前に、3つのファイルすべてを同じローカルフォルダーにコピーする必要があります。

> 6.0バージョン以降、Xfile3はライセンス管理のために新しいVIAライセンスシステムに統合されています。
XFile3 6.4以降を実行および操作するには、新しいXFile3およびXTAccessの有効なライセンスが必要です。
新しいライセンスを入手するには、フォトロンに連絡してください。
XViewer（XFile3に統合されている）ライセンスのみは、XSecureを使用し続けています。

新しい機能

バージョン 6.7

> XT-ServerへのLinx接続時に、クリップ名、キーワード、PL名のアーカイブインターフェースでUNICODEをサポート（Hammerサービス接続時には既にサポートされていました）。
> VIA-XSQuare 4.11の統合(XTAccess 4.11を含む)
> XViewer 4.11の統合
> Multicam 20.7およびMulticam 17.0との互換性

バージョン 6.6

> アーカイブと自動アーカイブタブで、"EVS サーバーへ "テンプレートを使用する場合、"ソースと同じ "オプションが追加され、選択したクリップをXT-Serverのオリジナル/ソースクリップの隣にアーカイブできるようになりました。XtraMotionのワークフローをXfile3と併用した場合に改善することが目的です。この機能は、Multicam 20.6と組み合わせて使用することをお勧めします。
> ProRes 4Kコーデックをサポート
> VIA-XSQ 4.8の統合
> Multicam 20.6との互換性

バージョン 6.5.2

> 統合された4.7 VIA-Xsquareバージョンの更新。XFile3 6.5.2はVIA-Xsquareバージョン4.7.2.62を統合しました。

バージョン 6.5

> Restore タブで使用される VIA Xsquare エンコーダ プロファイルを、XFile3 から更新できるようになりました。新しい edit ボタンにより、Xsquare エンコーダ プロファイル エディタにアクセスできるようになります。
> 統合された XViewer でクリップまたはファイルをプレビューするときに、Camera Label 情報が表示され、編集できるようになりました。
> XFile Lite Media Manager only モードは、XFile3 HW 以外に展開でき、Windows 11 で検証されています。XFile3 full package とその他のモードはまだ Windows 11 をサポートしていません。
> Multicam 20.5 互換
> XFile3 6.5 は、Xsquare ユーザー インターフェイス用の新しい UI を含む VIA Xsquare 4.7 を統合します。

バージョン 6.4

> ファイルを削除するオプションが XFileLite に実装されました。
> Multicam 20.4互換

バージョン 6.3

> Multicam 20.3互換

バージョン 6.2

> Multicam 20.2互換
> VIAメタデータ（BEMデータモデル）の統合： LSM-VIAワークフローのBEMデータモデル統合
> MediaManagerタブで複数のファイルを削除可能
> MediaManagerタブでファイルを移動するための新しいオプション
> プレイリストをレンダリングするときに既存のswapオーディオトラックのをサポート
> XFile3でのVIAライセンスUIの統合
> XFile3でのMediagridネットワークドライブの統合

バージョン 6.1

> Multicam 16.6 と Multicam 20.1互換
> AutoRestore と Restore タブから、XSQ Encoder プロファイルへのアクセス
> SLSMメディアアーカイブ時のオーディオ含むSLSM情報の保持
> Aux trackのサポート：プレイリストのレンダリング時
> XFile3インターフェースからのユーザマニュアルHTMLページのアクセス（PDFファイルの置き換え）

> XT Servers最大34 XTサーバーのサポート

バージョン 6.0

> Multicam 16.5 と Multicam 20.0互換
> ライセンス管理用のVIAライセンスの統合
> 同じVLAN内にXTサーバーがいなくてもXFile3への接続/操作可能
> プレイリストのアーカイブ時に、Playlist EDLがより詳細な情報を保持

バグ修正

バージョン 6.7

> 複数のXFile3アプリケーションが動作している場合、LSM-Viaが不安定になることがあった問題を修正。

> “全選択解除ボタン“を使用しても、XFile3のUIにクリップが表示されることがあった問題を修正。

> 一部のXTサーバーがXFile UIに表示されるのが遅い問題を修正。

> XFile3がXTサーバーを検出するが、クリップが0個と表示される問題で、R&Dで再現できないため、ログが追加されました。

> クリップの IN ポイントまたは OUT ポイントがドロップフレームの近くに作成された場合、Limit Short In/Out オプションを使用すると、アーカイブジョブが失敗してた問題を修正。

> XFile3 が 30 分以上実行されていて、ユーザーがユーザーまたはユーザー以外のテンプレートを編集しようとすると、テンプレートエディターウィンドウに「テンプレートが見つかりません」と表示され、しばらくするとテンプレートを編集できなくなる問題を修正。

> クリップTCがLSM Operatorによって変更されたときに、XFile3 AutoArchiveがアーカイブされたクリップTCを正しく更新できなかった問題を修正。

> LSM-VIAの負荷が高い場合、Xfile3とXT Serverサービス間のWebSocketが切断されることがあり、この状況が発生するとLSM-VIAのポジションに影響を与える可能性がありました。この問題は、XT Clip DBの通知（クリップの作成と削除）がXFile3で処理されるのに時間がかかりすぎることが原因でした。XFile3がこれらの通知を処理する方法を変更し、処理時間を短縮することで、WebSocketの切断を回避しました。これは、6.6.4での改善と合わせて、前述の問題を修正するものです。

> 何らかの理由でストリームが失敗し、″x ″ボタンの代わりに ″stop ″ボタンが使用された場合、アプリケーションが再起動されるまで、ストリームが再試行ループにはまり込むことがあった問題を修正。

> カットされたトランジションを持つプレイリストがフラット化されたとき、余分なビデオフレームが追加されることがあった問題を修正。

> LSM-VIAから、プレイリスト項目間にCUTトランジションがあるプレイリストをフラット化したとき、結果として得られるクリップのトランジションポイントに、偽のフレームが挿入されることがあった問題を修正。

バージョン 6.6.5

> LSM-VIAのアクティビティの負荷が高い場合、XFile3とXT Serverサービス間のWebSocketが切断されることがあり、この状況が発生するとLSM-VIAのポジションにも影響を与える可能性がありました。この問題は、XT Clip DBの通知（クリップの作成と削除）がXFile3で処理されるのに時間がかかりすぎることが原因でした。XFile3がこれらの通知を処理する方法を変更し、処理時間を短縮することで、WebSocketの切断を回避しました。これは、6.6.4での改善と合わせて、前述の問題を修正するものです。

バージョン 6.6.4

> LSM-VIAアクティビティやXTAジョブがXfile3に高負荷をかけた場合（またはその両方）、Xfile3とXT Serverサービス間でWebSocketが切断されることがあります。この現象が発生しても、Xfile3はユーザーに警告を発せず、すべて正常に動作しているように見えました。修正方法は、WebSocketの切断を検出し、XFile3 UIのサーバーリストからXT Serverとの接続を削除することです。その後、XFile3は該当するXT Serverとの接続の再確立を試みます。さらに、WebSocketの閉鎖を緩和するために、Xfile3アプリケーションのCPU優先度を上げました。

既知のバグと制限事項

既知のバグ

バージョン 6.7以降

> LinXプロトコルが正しいポートに到達できない場合があります。XTサーバーへの物理的な接続を開くとき、LinXはダイナミックレンジ（50100 -> 50107）のポートを使用します。時々、他のアプリケーションも同じポート範囲からランダムなポートを使用し、LinXのポート範囲からポートを選択することがあります（SNMPなど）。このような状況が発生するとXFile3が応答しなかったり、XFile3が検出されたサーバーを追加できなかったりすることがあります。

> XFileがクリップのインデックスを作成している間にMulticamからクリップを削除すると、XFile3で同期の問題が発生することがあります

。

バージョン 6.6以降

> 複数のユーザーアカウントを使用すると、XFile3を起動できません。例：XFile3を起動したユーザーとは別のユーザーでWindowsにログオンし、2つ目のユーザーアカウントからXFile3を起動しようとした場合。この問題はXfile3 6.4バージョンで発見されました。

> ［Archive］ クリップのIN点またはOUT点がドロップフレームのタイムコードの近くに作成され、アーカイブオプションのLimit to Short In/Outが使用されている場合、このクリップのアーカイブジョブは失敗します。回避策としては、そのクリップに対してLimit to Short In/Outを使用しないか、アーカイブする前にIN/OUTクリップポイントを調整してください。

> ［Autoarchive］ 新しいオプション ″Same as source ″をXMOワークフローと組み合わせて使用する場合、Multicam 20.5またはそれ以前のバージョンを使用し、ルールの設定によっては、XMOから得られたクリップが同じルールによって再度取り込まれ、何度もXMOに送信されることがあります。Multicam 20.6を使用する場合は、このようなことはありません。

バージョン 6.5以降

> ［MediaManager］ プレーヤーでファイルのメタデータを編集し、変更を保存する前に他のファイルを選択し、″unsaved changes″ ポップアップメッセージで “Cancel” を選択すると、メッセージが再度表示されます。

> ［Archive］ 1080p で作業している場合、Xfile3 から Flatten Playlist を起動すると余分なフレームが追加される場合があります。

> ［Archive］ LSM リモコン（LSM-VIA ではない）のセットアップで操作する場合、Flatten Playlist が機能しない場合があり、“Object reference not set to an instance of an object” というメッセージが表示されてジョブが失敗します。
このバグは体系的なものではないため、同じ操作を再試行すると回避策として機能する可能性があります。

バージョン 6.4以降

> ［AutoArchive］ XFile3 を起動し、“Flag for archive”に基づいて既存の AutoArchive ルールをすばやく起動する場合サーバー同期フェーズ（XFile3 の起動時）中に、クリップをアーカイブするようにマークしても、その正確な瞬間にXfile3 に影響を与えない可能性があり、したがって、これらのフラグ付きクリップに対してジョブはトリガーされません。これは、XFile3 がオフのときにサーバー同期フェーズまたはフラグが立てられたクリップ以外では発生しません。

制限事項

> [AutoArchive]LSM-VIAを使用したセットアップにおいて、既に自動アーカイブされたクリップがLSM-VIAオペレータによって変更された場合、アーカイブされたクリップのメタデータが正しく更新されますが、TC-IN/OUTは元のままとなります。回避策として、自動アーカイブされたクリップがLSM-VIAオペレータによってリトリムされた場合、手動でアーカイブすることをお勧めします。

> XFile3と同じVLAN内のEVSビデオサーバーは、LinXプロトコルによって自動的に検出され、Servers Discoveryタブに表示されます。IPアドレスの範囲外のEVSサーバーを手動で検出することが可能です。
ただし、XFile3は、**同時に最大31台のサーバー**に接続して動作することができます。

> VIAライセンスUIは、XFile3にのみ統合されています。XFileLiteは近い将来それを統合されます。

> XViewer（XFile3に統合）ライセンスは、管理にXSecureを使用し続けます。

> XFile3の*Restore/Autorestore*タブには、'to XT server' が宛先として設定されているXSQ encoderプロファイルのみが表示されます。

> 速度が300%を超えるプレイリストをフラット化することはできません。
  - メッセージは、ユーザーのフィードバックを改善するように調整されています。

> [Monitoring] ポストプロセス時の進捗情報はありません。

> Auto Archive機能を使用すると、更新されたメタデータを含むファイル名は、アーカイブ中にXMLコンパニオンファイルが作成された場合にのみ更新されます。

> 複数のSDTIネットワーク構成で複数のXFile3を使用する場合、XFile3 GUIのサーバーのリストの順序が異なる場合があります。

> 全てのサーバーに同じTCが供給されていない場合、XFile3ストリーミングが正しく機能しない可能性があります。

> 既存のクリップがフォルダにバックアップされ、ユーザーがアーカイブステータス（0）の選択を解除した場合、クリップに再度フラグを付けてアーカイブすると、XFile3はクリップをバックアップしますが、アーカイブされた値は更新されません。

> XFile3のサーバー検出メカニズムでは、全てのPC LANサーバーポートがXFile3ハードウェア内の同じネットワークカードから見えるようにする必要があります。

> Restore：ソースファイル名は260文字未満、フォルダ名は248文字未満である必要があります。

互換性

ソフトウェア

> XFile3 6.7 は、以下と互換性があります：
  - Windows 10 64 bits バージョン 2019 LTSC
  - Windows 10 64 bits (検証済みバージョン： Windows 10 バージョン 1607 [LSTB または CBB])

> XFile3 6.7 は、以下と互換性がありません：
  - Windows 32 bits バージョン
  - 上記以外のすべてのWindowsバージョン(Windows 7 64 bits、Windows XP、Windows 8、Windows Server 2003、Windows Server 2012、Windows Server 2016、その他)

> EVS 互換性：
  - Multicam 16.6以降、Multicam 17.0と20.1以降
  - VIA-XSquare 4.11 (XTAccess 4.11含む)

> これは、64-bitバージョンのXFile3です。.
  - このバージョンは、以前の32ビットバージョンと互換性がありません。
    XFile3の32ビット（4.15.0以前）バージョンと64ビットバージョン（5.0以降）を同時にインストールしないでください。

> XFile3インストーラーは、新しいバージョンをインストールする前に、最初に以前のバージョンのXFile3と依存関係を削除します。

ハードウェア

> XFile3 6.7アプリケーションは、次のXFile3ハードウェアでサポートされています
  - REF: PMA2-6801S
  - REF: PMA2-6501S
  - REF: XF3-2U-4

> XFile Liteモードで実行する場合、アプリケーションを別のハードウェアにインストールできます。

> 4台以上のXfile3を使用する場合は、XT/XSサーバーにH3XPボードが必要です。

> EVS 互換性：
  - 互換： XT3、XT4K、XT-VIA、XT-GO
  - 互換： XS、XS3、XS4K、XS-VIA

以上